

# 北陸民放クラブだより

## 石川 新たな同好会が誕生!

吉田 直樹(MRO)

定年延長、定年後再雇用などの昨今の流れを受け、当クラブも新入会員の数が頭打ちとなり、これに伴い同好会活動も、活発なのは特定の会に偏り、休会状態の同好会も目立ってきました。

各クラブも同様かと存じますが、ここ1、2年、団塊の世代の方々が65歳を迎え、再び入会者の数が上向いてきました。役員会改選期であった今年度、役員にも新しいメンバーを加えることにより、既存の同好会への加入促進はもちろんのこと、新しい会の結成の動きも出てきました。

まず、7月に釣りの会が発足、1回目の釣りの会を挙行しました。秋には落語の会の立ち上げを予定しており、このほかにもパソコンや日本酒の会なども話題にのぼっています。

当クラブの目的が会員相互の懇親であり、その手立てとして同好会活動は唯一の手段です。

新しい会の誕生は当クラブにと

つての「収穫」にはかなりませせん。ブログや広報を担当する事務局としてもきめ細かに支援を行いたいと存じます。

## 福井 クラブ活動で三県相互乗り入れ

小川 忍(FTB)

全国的に猛暑だった今夏、福井も例外ではなかった。

35度超えが幾日もあり、熱中症患者も例年以上に多く出たようだ。「北陸民放クラブ・福井」の活動もこの暑さのせいにして一服状態で、春の「舞鶴訪問」以降は大きな活動はできなかった。

今は、勝手に充電期間と決め込んで、秋に予定している今年で三回目の「芋煮会」に向けて準備を進めている。

今までもそれぞれのクラブ活動へのお誘いはあったが、今年三月の富山・石川・福井の北陸三地区民放クラブ打ち合わせで、今後地区内で横の交流を活発にしようということが申し合わされた。お互いに各地区の活動に参加を呼び掛けることとなったが、今年度

の第一回目が8月23日、24日のクラブ石川主催の「能登キリコと火の競演・輪島大祭」視察。福井からも中野会長以下4名が参加した。

当クラブの「芋煮会」にも富山、石川の各民放クラブに声かけをしたところ、「参加希望者あり」との返事を貰っており、これまで以上に楽しい会になりそうだ。

次回、この機関誌で詳細が報告できると思っている。

このように「北陸民放クラブ」は少しずつではあるが、一つの新たな形が形成されつつあるように思う。

今後は俳句など趣味の分野での交流も実現できればと思っている。

## 富山

### 自家菜園で健康野菜作り

澤田 克美(KNB)

春の苗の植付けや播種時は気候も良くて発育良好と思いきや、今年には猛暑で定番の夏野菜は水枯れ状態、生育不良状態となる。

熱中症を案じながらも週三回程、自宅から25km離れた実家の畑へ車で通うが、茄子や胡瓜は巨大化し処理に困る。手のかからない南瓜

(ジェジェE)を植付け、結果は良好で日持ちもするようです。

菊芋は以前栽培したが収穫後、芋の一片でも畑に残っていると翌年は発芽し、菊芋のジャングルになります。そこで病害虫にも強いヤーコン(サラダオトメ)を植付け、今の処順調に生育中、秋には充分な収穫を予定しています。



装備は万全です

イモで繁殖する菊芋と異なり、付根に出来る塊茎の芽で繁殖。梨に似た食味で、生食ではサラダやきんぴらに葉はお茶として利用、血糖値の上昇を緩やかにする効能が期待されます。これらの畑仕事の助手は、型式は古いが力持ちの耕運機達です。